

2003年に当時のナイジェリア大統領夫人：ステラ・オバサンジョが提唱し、2012年の国連総会で「女性器切除の事実を広め、行動を起こしていくための日」として定められました。

## 女性器切除（Female Genital Mutilation: FGM）とは

幼児期から15歳頃までの女子の性器の一部を切除したり、縫い合わせたりする慣習のことです。「FGMは身を清めるため、結婚するため、受けないとコミュニティのリーダーになれない・元気な子どもを産めなくなる・家庭やコミュニティから排除される」などの迷信・歴史、社会、宗教的背景、医療従事者の理解不足などによって、古くから多くの国（主にアフリカ諸国）で行われており、約30カ国・2億人以上（2023年2月時点）の女性・女子が、拒否することが困難な状況に置かれてFGMを経験しているといわれています。

FGMは不衛生な環境・麻酔なしで行われたり（医者ではない者が行うことも）、強引に押さへ・捕らえて施術したりすることも多く、FGMを受けさせられる女の子たちは、何をされるか分からぬまま筆舌に尽くし難い痛みや恐怖に襲われ、最悪の場合死に至ることもあります。

そのため、施術後は、酷い生理不順・生理痛や、出産時などの大量出血・激痛、感染症、心の傷など、多くの悪影響が残ります。

国連ではFGMを「女性に対する暴力」「女性と子どもの権利の侵害」、WHOも「健康上の利点などない」と断じており、SDG5.3でもFGMの根絶を定めています。

そのため、FGMを法律で禁じる国や、FGMに反対する人が増えつつありますが、コロナ禍による経済低迷や相次ぐ紛争などで、収入源としてFGMを行う者が新たに出てくる、FGMを受ける女子が低年齢化しているなど、新たな問題も発生しています。

## FGM根絶のためには

FGMには古くから続く社会・歴史・宗教的な背景が複雑に関係しているため、根絶には様々なハードルがあるのも確かですが、法整備の強化、FGM被害者の心身ケア、正しい性教育・情報の提供など、様々なアプローチで「FGMは受けるべきではない」と考えを変える取り組みを地道に継続することが大切です。

下記の引用元などで、どのような活動が行われているのか調べてみましょう！

引用

・公益財団法人 日本ユニセフ協会HP 「2月6日は女性器切除(FGM)根絶の日」世界で2億人の女性がFGMを経験 COVID-19で200万人増加の恐れ。(2022年2月3日) 「女性器切除 (FGM)」

・公益財団法人フラン・インターナショナル・ジャパンHP 「【おしえて！フラン】「女性器切除 (FGM)」の問題を知る」

・UNICEF 「Female genital mutilation (FGM)」(2023年2月) (英語)

5 ジェンダー平等を実現しよう



【SDG5.3】  
未成年者の結婚、  
早期結婚、強制  
結婚及び  
女性器切除など、  
あらゆる有害な  
慣行を撤廃する。



Together, We Can CHANGE the World はじめてみよう！あなたにできること。

もっと国際デー！

関連情報を調べてアクションをおこしてみよう！

FTCJはあなたの好きなこと・特技を活かした国際協力をおすすめしています。あなただからこそできる国際協力を一緒に探しませんか？全国のメンバーが様々なアクションを起こしています。アクションのヒントはコチラで検索！

FTCJ 活動ヒント 検索